

(新) バイオマス系廃棄物のリサイクル・エネルギー利用のためのデータベース化・モデルシステム化調査 10百万円( 0百万円)

廃棄物・リサイクル対策部 廃棄物対策課

## 1. 事業の概要

生ごみ等のバイオマス系廃棄物の成分データや原単位をデータベース化し、安定・確実な循環利用を図ることが出来る需要と供給の組み合わせ例や循環ループのモデルシステムを設計する。

このため、都市部(住宅街、オフィス街、工場地区)、農山漁村部(農業地域、畜産地域、林業地域、漁業地域)を包括している市町村等を代表地域とし、生ごみ等のバイオマス系廃棄物の種類、排出量、成分、供給側の事情等と、利用可能性の十分にあるリサイクル品や回収エネルギーの利用先、受入可能数量、需要側の事情等を調査し、データベース化する。

## 2. 事業計画

平成19年度

- ・代表地域の選定
- ・代表地域におけるバイオマス系廃棄物の種類、量、成分等基礎情報を調査
- ・代表地域における利用可能なリサイクル商品やエネルギーの種類、量、供給先等の調査

平成20年度

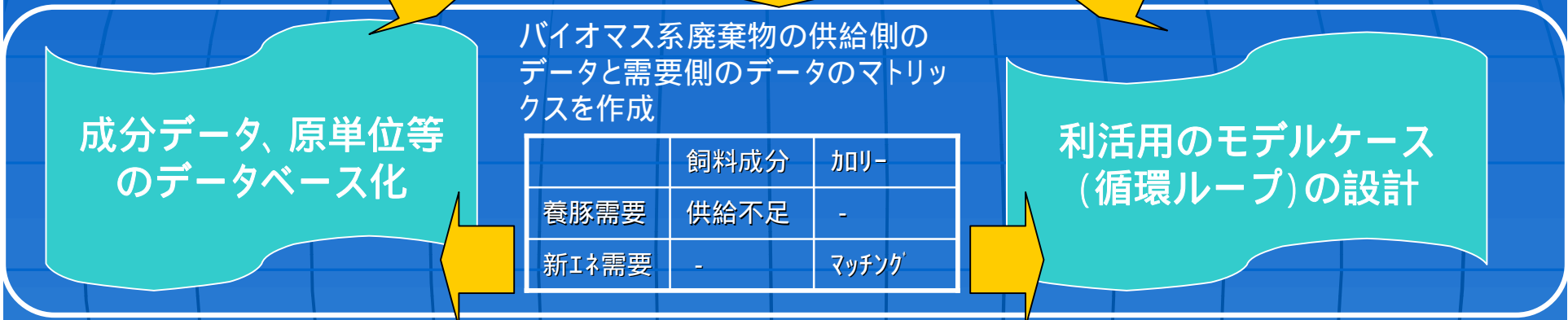
- ・バイオマス系廃棄物の基礎情報データのデータベース化
- ・バイオマス系廃棄物の利活用モデルシステムの設計

## 3. 施策の効果

調査により整備したバイオマス系廃棄物の基礎情報データや利活用モデルシステムを参考にして、地域に最適なバイオマス系廃棄物の利活用方法の選択を可能とすることができる。

# バイオマス系廃棄物のエネルギー利用データベース化等調査について

- ・食品廃棄物約1900万トン  
(動植物性残さ、売れ残り、食べ残し、厨芥類)
- ・家畜ふん尿 約8900万トン
- ・下水道汚泥 約7500万トン
- ・その他 約7200万トン



【バイオマス種類】×【成分】×【供給量】×【飼肥料・エネルギー用途】×【需要】等の最適な組合せ

バイオマス系廃棄物のリサイクルを行う者に有益な情報を提供  
廃棄物の組成に応じた利用方法を選択  
需要のある利用用途に応じたリサイクル方法を選択

失敗のない円滑なりサイクルシステムの構築が可能

脱温暖化社会

循環型社会